

大牟田の企業がベトナムのエビ養殖産業振興に挑む！

～ファインバブル装置を使った自然調和型養殖技術の普及へ～

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において中島物産株式会社(大牟田市、中島康宏代表取締役社長)が提案する「自然調和型養殖技術を通じたエビ養殖生産性向上の案件化調査」(ベトナム)を採択しました。

ベトナムでは、2012年にメコンデルタ地域において、病害による大規模なエビ死滅が発生し、エビ業者等を抱える沿岸諸省がかつてない経済損失を被りました。既存の養殖技術では、エビの生存率を向上させるために抗生物質が多用されているため、耐性菌が発生しており、環境負荷も大きいと、新たな養殖技術が必要とされています。濁水下でも極小の泡を発生させることができる同社のファインバブル装置を活用することで、養殖池における水質浄化効果や殺菌作用が期待でき、エビの生存率や成長率が向上する可能性が高いと考え、ベトナムで調査を行っていきます。抗生物質や化学物質を極力利用しない自然調和型の養殖技術を普及させることにより、ベトナムにおける持続的な養殖産業の振興に貢献することを目指しています。



写真左: 同社のファインバブル発生装置



写真右: ファインバブル発生装置が稼働中の養殖池

なお、本調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」

(注)として実施され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

(注)本スキームは、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行うもの。企業は、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を行う。2012年度から実施されており、2018年度第1回分は今年4月に公示を行い、20件が採択。

参考: 2018年度第1回公示の採択結果について

https://www.jica.go.jp/press/2018/20180816_01.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA九州センター 市民参加協力課 担当: 大園、山下
TEL: 093-671-8204 E-mail: Ozono.Momomi@jica.go.jp